

平成 30 年 6 月 24 日現在

機関番号：20105

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K20804

研究課題名(和文)市町村保健師との協働によるタブレット型保健指導教材システムのプロトタイプ開発

研究課題名(英文)Prototype development of the tablet type health guidance course system by cooperation with a preservation of health teacher of towns and villages

研究代表者

田仲 里江(TANAKA, Rie)

札幌市立大学・看護学部・助教

研究者番号：40613683

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：自治体保健師が個別保健指導で活用できるタブレット型教材システムのプロトタイプを開発することを目的とした。市町村に研究協力を依頼し、健診後の保健指導を実施している保健師を対象に生活習慣病対策や保健指導に関する聞き取り調査を実施し、保健師が実施する保健指導や使用している保健指導教材に関する内容について項目の検討および保健師による保健指導の内容を分析中である。調査の内容に基づき、市町村保健師と協働でタブレット型教材の内容について住民が目的や教材の内容を理解できる内容を検討し、試作版を試作中である。

研究成果の概要(英文)：The aim was to develop a prototype of a tablet type teaching material system that municipal public health nurse can utilize for individual health guidance. We asked municipalities for research cooperation and conducted an interview survey on lifestyle disease measures and health guidance for public health nurses who conducted health guidance after medical checkups and used health guidance and health guidance conducted by public health nurses. We are analyzing the items concerning the contents of health instruction materials and analyzing the content of health guidance by public health nurses. Based on the contents of the survey, in cooperation with the municipal health nurse in municipalities, studying contents that the residents can understand the purpose and contents of the teaching materials on the contents of tablet type teaching materials, and prototype version is under development.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：保健指導 生活習慣病予防 タブレット型保健指導教材

## 1. 研究開始当初の背景

近年、糖尿病を含む生活習慣病予防対策が我が国の重要課題となっている。生活習慣病に係る医療費が増加し続ける中、糖尿病性腎症による慢性腎臓病(CKD)に伴う新規透析導入、心血管疾患のリスクを高め、網膜症、神経障害、足病変といった合併症を併発し、生活の質(QOL)に多大な影響を及ぼすのみではなく、社会経済的活力と社会保障資源に多大な影響を及ぼす。厚生労働省は、糖尿病等の生活習慣病の予備群に対する保健指導の第一の目的を、生活習慣病に移行させないこと<sup>1)</sup>としている。また、生活習慣の改善につなげる保健指導の特徴として、健診によって生活習慣病のリスクを発見し、自覚症状はないが発症リスクがあることや、生活習慣の改善によってリスクを少なくすることが可能であることを、健診対象者にわかりやすく説明することが特に重要である<sup>2)</sup>としている。

自治体保健師は、健診後の個別保健指導により、健診対象者一人ひとりの生活実態を把握し、体のメカニズムの視点から健診結果を読み取り、科学的根拠に基づき健診対象者に健診結果をわかりやすく説明することで行動変容を促し、糖尿病等の生活習慣病を予防する役割が期待されている。

## 2. 研究の目的

生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底に重点を置いた対策を推進するための、効果的で効率的な保健指導教材内容や保健指導方法を研究した文献は少ない。

本研究と関連のある先行研究として、調査した自治体保健師の約6割がタブレット型携帯情報端末に興味を持っている<sup>3)</sup>と報告があ

る。また、タブレット型携帯情報端末は、持ち運びが簡易で提示も簡便なため情報提供ツールとしての活用も期待される<sup>3)</sup>とも報告されている。さらに、メタボリックシンドローム該当者へ行動変容ステージに合わせて保健指導を実施した研究では、ワークブック型のテキスト教材を使用することで対象者が減量できる可能性<sup>4)</sup>が報告されている。

そこで、本研究では、自治体保健師が個別保健指導で活用できる効果的なタブレット型教材システムのプロトタイプを開発することを目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究の概要

生活習慣病発症予防と重症化予防において、先駆的な自治体の保健師が実施する、健診後の個別保健指導の実際とプロセス、その効果をインタビュー調査し、住民用保健指導教材の内容を明らかにすること。

インタビュー調査にて、市町村保健師が使用している既存の住民用保健指導教材使用時の教材への保健師のニーズと課題を明らかにすること。

市町村保健師との協働によりタブレット型教材システムを開発すること。

研究については、S大学の倫理委員会の審査を受け実施した。

### 【文献検討及び情報収集】

健診事後の保健指導や生活習慣病予防対策、保健指導プログラムに関する国内外の文献検討を行い、効果的な保健指導について詳細に文献検討を行う。

## 【定性的調査】

### フィールド調査

内容：具体的な健診後の保健指導内容について把握する。

対象：生活習慣病予防において先駆的保健活動を実施している自治体の保健師（3か所の自治体）

方法：面接による聞き取り調査（1年目に実施）

### 質的記述的研究

内容：生活習慣病対策のプロセス、保健指導などの具体的内容を抽出する。

対象：保健分野に勤務し、健診事後保健指導を実施している保健師（5名程度）

方法：半構造的な個別インタビューを実施し、生活習慣病予防対策、保健指導などについて語られている部分を抽出し、類似性をまとめ、保健指導教材使用時の保健師のニーズと課題を分析する。

## 【タブレット型教材のプロトタイプの開発研究】

### 開発研究

内容：市町村保健師と協働で住民用タブレット型教材システムのプロトタイプの開発を行う。

対象：健診後の保健指導を実施している保健師（2か所の市町村）

方法：面接による聞き取り調査

## 【平成 27 年度計画】

### (1) 文献検討による整理

これまで収集した文献に加えて、生活習慣病、保健指導などの国内外の文献を収集し、保健師の実施する健診後の保健指導について検討する。

### (2) フィールド調査の実施

上越市、北九州市、南城市の3か所の市町

村に研究協力を依頼し、市町村で健診後の保健指導を実施している保健師を対象に生活習慣病対策や重症化予防、保健指導に関する聞き取り調査を実施する。

### (3) インタビュー調査の実施

複数の市町村から対象者を募集する。対象者は、市町村保健師で、対象数は、5名程度を目標とする。

インタビューガイドを作成し、生活習慣病対策、重症化予防、保健指導に関する半構造的な個別インタビューを実施する。録音した面接内容から逐語録を作成し、保健師が実施する保健指導や使用している保健指導教材に関する内容を分析する。

## 【平成 28 年度計画】

### (1) タブレット型教材の試作・検討

文献検討、フィールド調査、インタビュー調査の結果に基づき、市町村保健師と協働でタブレット型教材の内容について検討し、試作版を作成する。

北海道内の2か所の市町村に協力を依頼し、市町村で健診後の保健指導を実施している保健師と協働でタブレット型教材の使用感、改善点などを検討する。（各市町村2名程度 合計4名）

タブレット端末のシステム開発の経験のある研究協力者（本学デザイン学部教員）の協力を得て実施する。

## 【平成 29 年度計画】

(1) 平成 28 年に引き続き、市町村で健診後の保健指導を実施している保健師と協働で使用感、改善点などを検討しながら、タブレット型教材プロトタイプの開発をする。（各市町村2名程度 合計4名）

(2) 研究結果のまとめを行う。

## 4 . 研究成果

市町村に研究協力を依頼し、健診後の保健指導を実施している保健師を対象に生活習慣病対策や保健指導に関する聞き取り調査を実施し、保健師が実施する保健指導や使用している保健指導教材に関する内容について項目の検討および保健師による保健指導の内容を分析中である。

調査の内容に基づき、市町村保健師と協働でタブレット型教材の内容について住民が目的や教材の内容を理解できる内容を検討し、試作版を試作中である。

#### 引用文献

- 1) 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 厚生指標増刊, 61(9), 2014/2015.
- 2) 厚生労働省健康局：標準的な健診・保健指導プログラム(確定版). 2007.
- 3) 辻よしみ, 高嶋伸子 他：タブレット型携帯情報端末の保健指導活用への可能性 自治体保健師のIT 活用実態からの考察. 四国公衆衛生学会雑誌, 1:75-78, 2012.
- 4) 松永里香, 小池 城司, 黒田 利香 他：多理論統合モデルに基づく行動変容ステージ別特定保健指導プログラムの開発とその妥当性の検討. 日本循環器病予防学会誌, 45(3), 169-179, 2010.

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表

田中 里江 (TANAKA Rie)  
札幌市立大学・看護学部・助教  
研究者番号：40613683

##### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3)連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4)研究協力者

( )